

2023年度 放課後等デイサービスガイドライン自己評価結果

令和6年7月27日公表

1、自己評価実施について

○実施期間 2024年1月22日～3月31日

○回答数 保護者評価 13 (16家庭中)

スタッフ自己評価 12 (15人中)

○回答数内訳 別紙

2、評価の分析

【保護者の評価】

○施設・設備の整備について

指導員の配置、施設・備品の損壊に「わからない」という評価。保護者によっては、直接活動や活動場所の様子を見る機会が取れないことが理由と思われる。手厚くみてくれているという意見もあるので、指導員体制は評価されている。

○活動の全体状況の整備

安心して通わせられるかや個人情報の取り扱いについて、わからないという評価がある。具体的な意見はないが、普段の保護者とのやり取りの中で、行き届かない部分があると思われる。

個別の意見では、子どもがわかばを楽しみな場所と評価されているということで、活動は評価されている。保護者会内での活動報告や、日々の迎え、送迎時の引継ぎでの様子を伝える際に、やったことだけでなく、こんな出来事があったという具体的に伝える取り組みが、保護者の活動への理解につながったと思われるが、その際の伝え方などで個人情報への不安が生じた可能性もある。

○保護者との関係づくり

苦情に関して「わからない」が3件、ほかでもいくつか見られる。意見欄には具体的な記述はないが、曜日の変更の希望や送迎の対応などで、体制上対応できないことがあったので、そうした実情が反映されているものと思われる。

また、家族行事など交流の機会への工夫と、保護者同士のつながりに関して「いいえ」が各1件。親子行事などは実施しているが年に1回程度なため。参加できない家庭もあり、十分ではないという意見と思われる。また保護者会などの参加者も減ってきており、家族会などの負担が一部の保護者に偏ってしまっていることが、人数が少ないという意見になっていると思われる。

引き続き保護者とのコミュニケーションは緊密に行っていきたい。

【スタッフ自己評価】

○施設・設備の整備

各項目、わからない、いいえが複数名、具体的な意見も出されているが、認識が異なる部分も見受けられる、スタッフで共有して、共通認識の形成と改善点は見直していく必要がある。

○活動の全体状況の整備

各項目、わからない・いいえが数名いる。各種マニュアル等は策定しているが、周知が十分でないこ

と。研修については、行っているが、受けられるスタッフとそうでないスタッフがいることなどから、出来ていないという評価になっているものと思われる。

○実践的な力量の向上

わからないという評価はあり、具体的な意見で話し合いの実施や反省などが出来ていることから「わからない」の意見は、自身の支援を謙虚に評価している結果と思われる。個別支援計画の見直しについては、支援計画に変更がない場合もあるが、なぜ継続なのかという事まで全体に十分に伝わり切っていないことが原因と思われる。

○保護者との関係づくり

保護者の思いや願いの汲み取りでは、意見欄にある通り直接会う機会・時間が限られているので、その中で保護者との共感や理解を得るのが難しいと感じるスタッフも多く、汲み取ろうとしているが、結果が明確ではないものなので、わからないという評価になっているものと思われる。保護者同士の交流については、保護者の評価でも触れた機会の少なさはスタッフも同様と考えられる。

○関係者・関係機関との連携

各項目でわからないという評価が多い。関係機関との情報は伝えているが、意見欄にもある通り、直接関わっていないので、実感が持ちづらいことが原因と思われる。

意見欄で後日情報を共有しているというものがあり、いかに実感につながるような連携の仕方、伝え方をしていくかが課題と考える。

協力医療機関に関しては、あるのだが、利用する機会がなかったことでわからないという意見になっていると思われる。

3、改善目標

○保護者の評価

ほとんどの保護者が活動を評価してくれているが、不安を感じていると思われる回答もあった。

日々の活動の充実はもちろん、保護者とスタッフで子どもや支援の認識を共有できるように、保護者会や面談だけでなく、送迎時の伝え方など、限られた時間の中でも、様子や変化などを簡潔にでも伝えあえる日常的なコミュニケーションの機会を充実させていく。

親子行事などの再開はしたが、再開したことで、参加できる家庭とそうでない家庭や、内容などの課題が見えてきた。保護者会などの交流の機会を継続し、保護者の横のつながりを深め、子育ての悩みや喜びを言いあえる関係づくりにつなげていく。

○スタッフ自己評価

施設、設備の整備に関してはスタッフ全体で行っている施設整備を確認だけでなく、改修・改善までしっかりと実施していく。

活動の全体状況の整備については、シフト上で参加が難しいスタッフも訓練、研修ができるように全体の研修だけでなく、ビデオなども取り入れて個別での実施もしていく。また、マニュアルの周知を改めて行う。

実践的な力量の向上については、昨年度同様に、子どもの課題やスタッフ同士の支援の価値観を共

有する機会として、前述と同様研修などへ参加できる機会を可能な限り増やす、研修へ参加したスタッフの報告を行い、集団での議論を通して、子どもへの理解と支援への自信が深まっていくように取り組んでいくことを継続する。

保護者との関係づくりについては、日常的にかかわれないこともあるので、新型コロナウイルス感染症の流行の状況も鑑みながら、スタッフと保護者が顔見知りになれる機会を増やしていく。

関係者・関係機関との連携については、子どもの情報共有の際、こういった関係者からのものであるかも伝えることで、直接関わっていないスタッフでも、関係者との連携が自覚出来るように努める。